

船舶事故等調査報告書

平成27年8月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014横第181号
事故等種類	運航阻害
発生日時	平成26年12月20日 20時30分ごろ
発生場所	千葉県南房総市野島埼南西方沖 野島埼灯台から真方位242° 5.7海里付近 (概位 北緯34° 51.40′ 東経139° 47.21′)
事故等調査の経過	平成26年12月22日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	ロールオン・ロールオフ貨物船 ぷりんす はやて、5,930トン
船舶番号、船舶所有者等	135188、春山海運株式会社
乗組員等に関する情報	船長、三級海技士（航海）
死傷者等	軽傷 1人（甲板手）
損傷	船橋の窓ガラスに破損、海水の浸入により航海計器等に濡損
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか9人が乗り組み、シャーシ等約1,150tを積載し、平成26年12月20日17時30分ごろ神奈川県横須賀市横須賀港を出港し、宮城県仙台塩釜港へ向かった。</p> <p>本船は、千葉県館山市洲埼西方沖を航過したのち、向かい波を受けて船体の動揺が激しくなり、20時00分ごろ船体動揺を軽減しようと針路180°とし、約5ノットの対地速力で野島埼南西方沖を南進中、20時30分ごろ、船首からの大波を船橋前面に受け、船橋前面の旋回窓付のガラス窓が割れて大量の海水が船橋内に打ち込み、船橋コンソール及び航海計器等が濡れて使用不能となり、主機の非常停止回路が作動して主機が停止した。</p> <p>甲板手は、窓ガラスの破片を顔面に受けて軽傷を負った。</p> <p>本船は、船長が海上保安庁に通報した後、手動操作による主機の使用が可能となり、来援した巡視船等が警戒に当たるなか、自力航行で京浜港川崎区に入港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 雨、風向 南、風力 7</p> <p>海象：波高 約4m</p> <p>千葉県南部には、強風注意報及び波浪注意報が発表されていた。</p>
その他の事項	本インシデント発生当日、日本列島付近は、日本海低気圧と南岸低気圧が本州を挟んで同時に存在する二つ玉低気圧型となり、南岸低気圧は発達しながら夜には三陸沖へ移動していた。
分析	
乗組員等の関与	なし

<p>船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>なし あり</p> <p>本船は、野島埼南西方沖を南進中、船首からの大波を船橋前面に受けたことから、船橋前面のガラス窓が割れ、海水が船橋内に打ち込み、船橋コンソール及び航海計器等が濡れて使用不能となり、主機が一時停止し、運航が阻害されたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本インシデントは、夜間、本船が、野島埼南西方沖を南進中、船首からの大波を船橋前面に受けたため、船橋前面のガラス窓が割れ、海水が船橋内に打ち込み、船橋コンソール及び航海計器等が濡れて使用不能となり、主機が一時停止したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気象情報に十分注意し、向かい波で航行することが予測されるならば、発航予定の変更も検討すること。